教友

第 92 号

目　次

アフターコロナを見据え、教友会の更なる発展をめざして……松澤　勇治…1
教育学部の近況……馬場　久志…2
「今、思うこと」……3
一人一言……5
令和三年度教友会事業報告……8
卒業５Ｘ周年同窓会開催等案内……9
卒業５Ｘ周年同窓会開催年度一覧表……10
埼玉大学ホームカミングデー　共催：埼玉大学・埼玉大学同窓会……11
令和三年度本部常任委員会報告……12
令和二年度一般会計決算報告・終身会費及び特別積立金会計決算報告……13
令和三年度一般会計予算……14
令和三年度教友会役員名簿・学年理事名簿……15
会則……16
事務局だより・編集後記……16

アフターコロナを見据え、教友会の更なる発展をめざして

会長　松澤　勇治

○ごあいさつ

会員の皆様には、日頃本会の事業の推進にご理解・ご協力をいただき感謝申し上げます。私、昨年六月十二日の総会に代わる本部常任委員会で会長に選出された松澤勇治と申します。

前会長の金子美智雄先生は、二期四年間にわたり、本会の発展のために力強いリーダーシップを発揮されました。豪放磊落でありながら緻密に物事を進められ、高い識見と行動力で様々な事業の見直しと新規事業の立ち上げにご尽力くださいました。先生には、顧問及び新事務局長として引き続きご指導をいただきながら、これまでの成果を継承・発展できるよう務めてまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

昨年は十月末に非常事態宣言が解除されましたが、コロナ禍にあって、多くの事業の縮小・中止を余儀なくされました。そうした中でのこの一年の主な活動内容について、ご報告申し上げます。

○事務局の移転

本会は、これまで事業の推進にあたり、事務局幹事として附属中学校の先生方が多くの業務を担ってきました。しかし、学部側から、これは、働き方改革の観点からは、本来の業務とは言えず、事務局そのものを附属中学校に置くこと自体にも問題があるとの指摘を受けました。そこで、学部との協議を重ね、九月一日から、教育学部附属教育実践総合センター内に移転することになりました。

ただし、事務局員が常駐していないため、電話での対応はできません。最終ページに記載の事務局のメールアドレスまたは、本会ホームページの「お問い合わせ」をご活用ください。

○「令和三年度版　会員名簿」の刊行

本会は、これまで五年ごとに会員名簿を刊行してきましたが、令和三年度版を作製するにあたり、個人情報保護の観点から刊行すべきかどうか、本部常任委員会等で検討を進めてきました。

その結果、同窓会の円滑な運営を図る上で会員名簿は不可欠であり、特に後述の「卒業五Ｘ周年同窓会」を開催するにあたっては極めて重要なものであることから、セキュリティ対策（会員限定の販売、シリアルナンバーの付与、警告文の表示、会員が希望した情報のみの掲載等）に万全を期した上で刊行することになりました。

同窓会の実施等を通して、より活用できる名簿の充実を図るとともに、今後の名簿の在り方について継続して検討してまいります。

○「卒業五Ｘ周年同窓会」の開催に向けて

本会は、「会員相互の親睦を厚くし、併せて教育の振興を図ること」を目的として各種事業を推進していますが、より目的達成に向けた事業として、令和元年度から、五年ごとに学年別同窓会を開催できるシステムに変更いたしました。ところが、令和二・三年度開催予定の学年同窓会は、新型コロナウイルス感染防止のため、やむなく中止となりました。ただ、開催を望む声もあり、十月九日に、次年度開催予定の学年理事対象の説明会を実施いたしました。まだまだ予断を許さない状況ですが、来年度こそ、開催できることを期待いたします。

コロナ禍における本会のこの一年の主な活動内容について記しましたが、一日も早い終息を祈りながら本会の更なる発展をめざして努めてまいります。会員の皆様の引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。（昭和五十年卒）